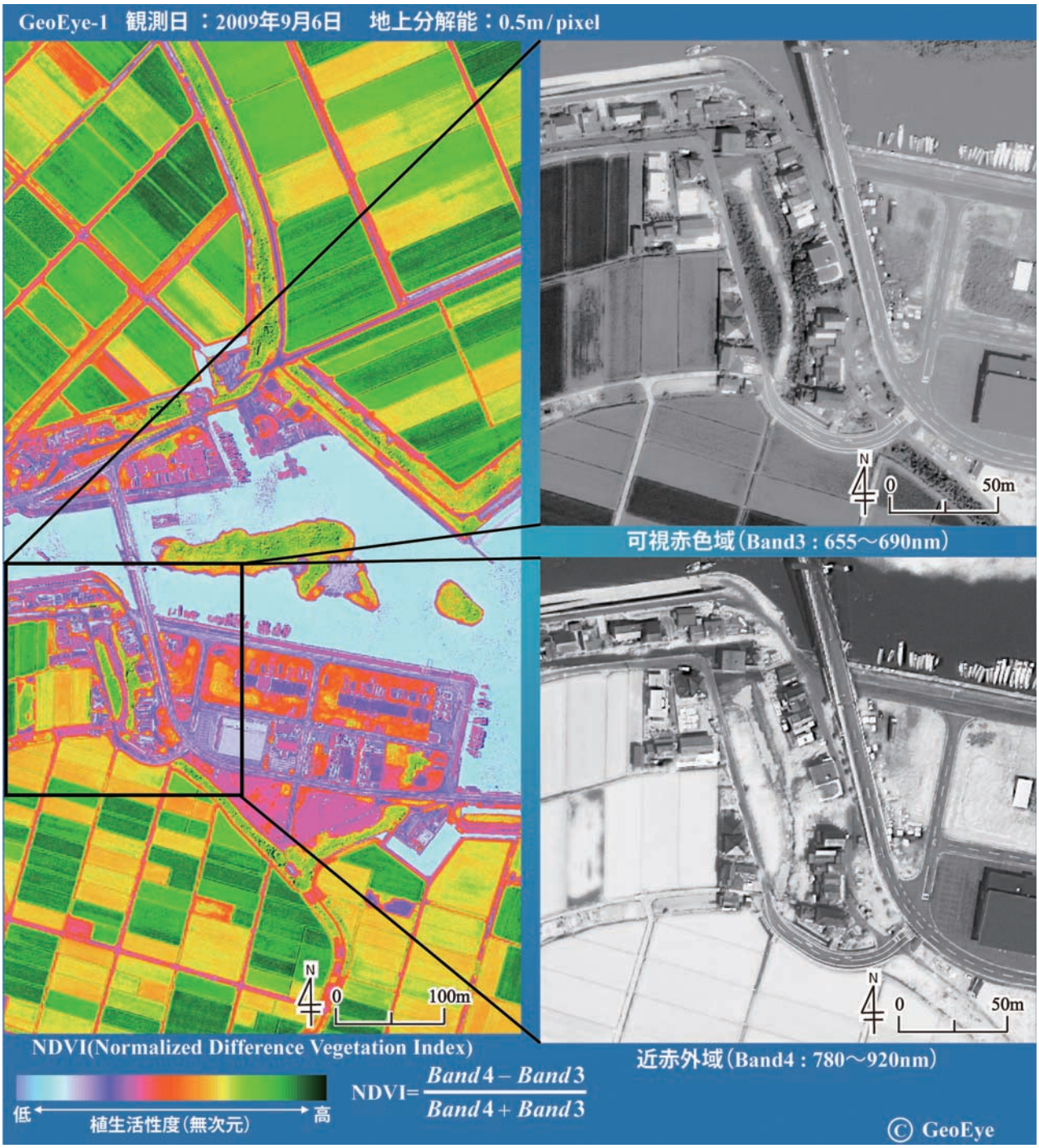
人工衛星GeoEye-1がとらえた「佐賀県有明海周辺」(2)

データ提供：日本スペースイメージング株式会社
データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲のGeoEye-1データに対して、植生の活性状況を把握するための画像処理を施してみました。右上部に可視赤色域の観測画像（バンド3：655nm～690nm）、右下部に近赤外域の観測画像（バンド4：780nm～920nm）を掲載しました。植生が活性化している箇所では、可視赤色域の電磁波吸収が強く（バンド3の画像上で暗色）、近赤外域の電磁波では反射が強く（バンド4の画像上で明色）なります。この点に着目した、いわゆる画像間比演算処理（下部の式参照）をとおして、植生の活性度を定量化できることになります。その結果が左側の画像です。これは正規化植生指標図(NDVI：Normalized Difference Vegetation Index)とも言われています。濃い緑色になる程、植生の活性度が高いことを意味します。干拓農地内の植生活性状況の違いがよく判ります。利用目的別に要求される土地被覆の分析精度は様々であり、衛星リモートセンシングデータの高分解能化、多バンド化が進む中、今なお多くの研究が進められています。



過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html